
旧クリーンリサイクルセンター解体工事
工事監理業務委託

特記仕様書

令和8年5月

北秋田市市民生活部生活環境課

I 業務概要

1 業務名称

旧クリーンリサイクルセンター解体工事工事監理業務委託

2 業務の目的

本業務は、北秋田市（以下「発注者」という。）が実施する、旧クリーンリサイクルセンター解体工事（以下「本工事」という。）に際して、発注者監督員（以下「監督員」という。）に代わり、本工事が施工の過程において適切に実施され、円滑に完了するように、工程、安全管理等の工事監理業務を行うことを目的とする。

3 施設の場所

北秋田市坊沢字大野宮後150

4 業務実施期間

管理対象となる工事は、議会の議決に付さなければならない契約であることから業務期間は、議決を受けた日の翌日から令和11年3月30日までとする。

5 解体施設の概要

(1) 解体施設

①焼却施設

竣工年月：平成2年3月

構造：鉄筋コンクリート・鉄骨造

延床面積：2,234.39 m²

建築面積：1,159.56 m²

処理能力：30 t / 16 h × 2 炉（準連続機械式ストーカ炉）

②粗大ごみ処理施設

構造：鉄筋コンクリート・鉄骨造

延床面積：1,096.91 m²

建築面積：503.62 m²

③灰固化棟

構造：鉄骨造

延床面積：305.26 m²

建築面積：117.07 m²

(2) 工事内容

- ①直接仮設工事
- ②除染工事
- ③機器解体工事
- ④煙突解体工事
- ⑤建屋解体工事
- ⑥環境確認調査
- ⑦整地工事
- ⑧土壌汚染対策工事
- ⑨発生材処分
- ⑩その他

II 業務仕様

特記仕様書に記載されていない事項は「秋田県営繕工事監理業務委託共通仕様書（以下「共通仕様書」という。）」による。

1 特記仕様書の適用

特記仕様書に記載された特記事項を適用する。

2 管理技術者等の要件

受注者は、業務の円滑な遂行を図るため管理技術者及び照査技術者を配置しなければならない。なお、選任する技術者は受注者の社員とし、技術者を兼務することは出来ない。

(1) 管理技術者

管理技術者の資格要件は次のいずれかによる。

- ①技術士法に定める技術士（衛生工学部門（廃棄物・資源循環））
- ②又は技術士法に定める技術士（建設部門（建設環境））
- ③R C C M（廃棄物または建設環境）

(2) 照査技術者

照査技術者の資格要件は次のいずれかによる。

- ①技術士法に定める技術士（衛生工学部門（廃棄物・資源循環））
- ②技術士法に定める技術士（建設部門（建設環境））

3 業務の内容

業務は共通仕様書「第2章 工事監理業務の内容」に規定した項目のほか、以下の特記による。なお、各項目に定めた確認及び検討の詳細な方法については、共通仕様

書の定めによるほか、発注者の指示によるものとし、業務内容に疑義が生じた場合は、速やかに発注者と協議するものとする。

(1) 書類審査

工事請負者が作成した設計図書（工事内訳書、各種計画書等）について、発注者が定めた仕様書等の内容を確実に反映し、かつ関係する法令等を遵守したものであるかの調査、審査を行うとともに、必要に応じて工事請負者に対する指示等を行う。

①関係官公庁提出書類の協議・審査・報告

- ・ダイオキシン類曝露防止対策「実施計画書」の審査・報告
- ・アスベスト曝露防止対策「実施設計書」の審査・報告
- ・建設リサイクル法に基づく「分別解体等」に係る「届出書」の審査・報告
- ・建築リサイクル法に基づく「再資源化等完了報告書」の審査・報告

②各施工計画書等の協議・審査・報告

- ・全体仮設計画書の審査・報告
- ・その他必要とされる各施工計画書の審査・報告

③関係法令に基づく各種届出・許可申請等

④工事に必要な許可・資格等

⑤解体計画、除染除去・解体・撤去要領、手順書等

⑥各種調査・分析結果の確認

(2) 施工管理業務

工事請負者が実施する工事について、設計図書に基づいて作成される施工図等の審査を行うとともに、工事の進捗状況を管理し、必要に応じて工事請負者に対する指示等を行う。また、施工状況を把握、確認するために必要な検査、立会等を行う。

なお、受注者は原則として毎月1回以上の定例会議を実施することとし、その際、必要に応じて指示した事項等について、指示書等により、監督員へ報告すること。

また、監督員は必要に応じて、受注者の行う検査等に立ち会うものとし、内容に応じて必要なものは工事請負者から提出させる。

①ダイオキシン類及びアスベスト等汚染物除去完了時の確認

②各機器類解体前・解体中のダイオキシン類・アスベスト等有害物サンプリング立会

③各機器類解体前・解体中のダイオキシン類・アスベスト等有害物測定結果計量証明書の確認と報告

④解体工事計画書に基づく施工状況確認・報告

⑤発生材の中間・最終処分場搬入確認・報告

- ⑥発生材のマニフェストの確認
- ⑦周辺環境等の調査立会・報告（土壌・大気・粉じん）
- ⑧ダイオキシン類及びアスベスト、土壌汚染等汚染物対策仮設養生・機器類の稼働状況等の確認
- ⑨各種保護具・機材等ばく露防止対策の確認
- ⑩土壌汚染対策措置状況の確認（ダイオキシン類に関しては完了時の確認まで）
- ⑪焼却設備機器類等汚染箇所解体完了の確認
- ⑫汚染物（排水含む）分別・保管状況の確認
- ⑬廃棄物の分別・処理・処分状況の確認
- ⑭工事完成検査（発注者による工事完成検査前に行う）

（３）報告

①監理業務報告書

受注者は、業務進捗状況を取りまとめ、毎年度書面により発注者へ報告すること。なお、初年度及び２年度は中間報告とし、最終年度を完了報告として届出すること。

②履行報告書

受注者は毎月５日までに次の書類を作成し、発注者へ報告すること。

- ・履行報告書
- ・業務対象工事進捗状況
- ・月間業務報告書
- ・月間業務計画書
- ・打合せ記録の概要

（４）検査及び部分払い

①検査

発注者は、受注者より中間報告及び完了報告の届出があった場合は、これを検査する。

②部分払い

中間報告による検査の結果、合格となった場合に受注者は当該業務の対象となる工事の進捗率に応じた委託料の部分払いを請求することが出来る。